

人と人、組織をつなぎ、あなたの暮らしを支えます

# 愛さぽーと

I support

2026 | 寒河江市  
03 | 社会福祉協議会  
| 広報 vol.127

特集

## 白くあたたかい、その先に。

——ケアを問い直す。 (株)あおいけあ 加藤 忠相 NPO法人ぽけっとぴーす 村上 理香

# 白くあたたか、その先に。

— ケアを問い直す。

加藤 忠相<sup>ただすけ</sup>・村上 理香



私たちは「良かれ」と思って、安全や効率、あるいは家族の都合を優先してはいないか。その丁寧すぎる「お世話」の陰で、本人の生きる意欲という灯を消してはいないか。加藤さんの覚悟。そして村上さんが守り抜こうとする、居心地のよさ。二人のお話は、私たちが当たり前だと思っていた「優しさ」の形を、静かに、けれど力強く問い直していく——。

## からっぽのベッドと最後のラーメン

施設の部屋をのぞくと、ベッドに腰を掛けて、にこにこ挨拶を返してくれる入居者のおばあちゃんたち。その笑顔が仕事のモチベーションにもなっていた加藤さん。ある朝、そこにいるはずのおばあちゃんのベッドは「からっぽ」だった。

かつて勤めた特養時代、加藤さんが一番嫌だったこと。それは、大好きなおじいちゃん、おばあちゃんとの「中途半端な別れ」だった。ある日突然、空いたベッドを見て「亡くなった」ことを知る。「入院したとき、最期をどう過ごしたのかもわからない。あの喪失感と後悔が、ずっとあったんです」。

だからこそ、加藤さんが自ら始めたグループホームでは、10年以上にわたり「看取り率100%」を貫いている。「手に負えないから大きな施設へ」「危ないから病院へ」と、バトンを渡すことはしない。たとえ死期が近づいても、慣れ親しんだこの場所で、いつもの仲間たちと最後まで過ごす。「最後まで

でお付き合いきれないのなら、何の仕事をしているのかわからなくなる。それが、介護職のプライドなんです」。

そんな加藤さんにも、忘れられない後悔があった。グループホームを初めて、5年ほど経った頃、「すっげえ気難しくて、口数が少なくて、元看護師長でいつも苦虫を噛み潰したような顔してるおばあちゃん」がいた。普通に歩いて、食事もしっかり食べる人だった。あるとき、主介護者である妹さんから経済的な理由で、別の施設に入居することを告げられた。お金のことから、口をだすことはできなかった。

そして、おばあちゃんが過ごす最後の夜。食べたのは「ラーメン」というので、みんなで食べに行く。相変わらず愛想はなかったが、すごい勢いで餃子も平らげた。

それから半年が過ぎたころ、近所のスーパーで、偶然、おばあちゃんの妹さんを見かけた。「おねえさんは、お元気ですか?」と声をかけると、妹さんは伏し目がちに言葉を発した。新しい施設に移った後、一切食



事に手を付けず、2週間で亡くなった、と。

「あれは、言葉にならない彼女の精一杯の『抗議』だったんだと思います。」と加藤さんは遠くを見つめた。

## パラパラ、ざらざら。それが「らしさ」

加藤さんが守っているその人の「尊厳」は、日常の何気ない瞬間に宿っている。それを村上さんは、「心地よさ」という言葉で表現した。

車椅子の上で雑誌をめくる、楽しいことが好きな息子さん。ずっとそれをしてるので、知らない人は「勉強熱心ね」と声をかける。文字を読むわけではない。ページをめくるときのざらざらとした質感、紙やインクの匂い。パラパラと顔にあって、感じる。と同時に、耳はお気に入りの音楽に傾ける。これが心地いいようで、飽きずに一日過ごしている。これは「彼らしさ」なのだ、村上さんはノートをめくり、自分のあごにパラパラとあてた。

一方、チェッカーズに憧れ、中学校でブラスバンド部に入部した加藤さん。音楽映像作品では、透명한歌声を背景に、加藤さんが営む「あおいけあ」の日常が映し出される。夕日のオレンジに、サクスを演奏するそ

の姿の陰影が浮かぶ。

主役ではない。けれど、音が重なり、空間が満ちた瞬間、自然と拍手が起る。演奏会では、その手応えが、静かな充実感を運んできた。「ああ、これが自分らしい」

——「自分らしさ」とは。

## 「やりたくない」から始まった、現場への違和感

「本当は花屋か歴史の勉強をしたかった。でも、おじいちゃん子だったから、逆らえなかったんです」当時の加藤さんは福祉への情熱はゼロ。「西の方は怖そう」という理由で選んだ東北の福祉系大学。教員免許を取り、祖父の保育園を継ぐために「資格」を求めて過ごした学生時代。しかし、卒業を前に祖父が急逝。親族間の「お家騒動」によって、継ぐはずだった居場所を失う。それが皮肉にも、かつて憧れた「花屋」の世界へと彼を運ぶ。仕事に夢中になり、県社協からの再三の福祉求人ハガキも無視。「これ以上無視するなら紹介しない」という連絡に、渋々向かったのが、あの特養の面接

## 村上 理香 むらかみりか

特別非営利活動法人  
ほけっとびーす 理事長

寒河江市内で障がい児者の事業所を運営。「ずっとこのまちで自分らしく」を理念に掲げる。今年度、社会福祉士の資格を取得するため、寒河江市社会福祉協議会で実習を行うなど、学びの意欲は計り知れない。

### ほけっとびーすの森

一緒に働く看護師さんを募集しています。  
医療的ケアや、一緒に「楽しく心地よく」過ごせる方。  
勤務日数、時間は相談に応じます。

特定非営利活動法人 ほけっとびーす ☎0237-87-9735

## 加藤 忠相 かとう ただすけ

株式会社あおいけあ代表取締役  
(神奈川県藤沢市)

高齢者グループホーム等を運営。「管理」ではなく、その人の「暮らし」を支えるケアを実践。その姿はNHK『プロフェッショナル 仕事の流儀』や映画『ケアニン』のモデルとしても描かれた。プライベートでは無類のガンダム好き。ガンプラ作りは、一人の自分に戻れる大切な時間。





楽しそうに雑誌をめくる村上さんの息子さん

だった。「やりたかったわけじゃない高齢者介護の世界。断り損ねて、そのまま入っちゃったんです」と笑いながら話す。

花屋から福祉の世界へ飛び込んだ加藤さん。そこにあつたのは、想像していた「温かな交流」とは真逆の世界。

「じいちゃん、ばあちゃんとお茶を飲む場所だと思っていたら、渡されたのは一枚の紙。そこには5分単位で決められたマニュアルがありました」。

利用者と話せば、作業が遅れると叱られる。そこで行われていたのは、一人の人間としてのふれ合いではなく、「修道院よりも厳しい管理」と加藤さんは表現する。

コスト計算に狂奔する現場。「一人一枚しか清拭（おしりふき）を使わせないなんて言い始

めて……。『あ、これはもう無理だな』って。こんなところに親や家族を入れてたくないなって」。

加藤さんが「ダメな職員」として去らざるを得なかった20年以上前の光景。

「スケジュールが遅れるから急いで」「決められたこと以外はしないで」

その風景の中で芽生えた、加藤さんの「無理だな」という真つ直ぐな違和感。今、多くの人を救っている加藤さんの哲学は、「燃えるような使命感」ではなく、「やりたくなかった場所」で感じた「違和感」から生まれたものだった。

### ないなら、つくるしかない。

その「違和感」は、村上さんもまた、別の角度から感じていた。一級建築士として、確かな設計図があれば建物が建つことを知っていた彼女。しかし、障がいのある我が子の未来には、

の畑（可能性）を耕し、本人が持っている力を引き出すこと。だから、困っている人に僕が一方的に何かを『してあげ続ける』ことは、ケアじゃないんです」。

その言葉は、多くの人が無意識に作り上げていた「してあげるIIケア」を覆すもの。「良かれ」と思って先回りして準備する毎日、本人から「自分で選ぶ」「自分で動く」という、人間としての当たり前の尊厳を奪っていないだろうか。

もしその人が、かつてサックスを吹き拍手を浴びていたアーティストなら。

もしその人が、建物の構造を計算し、まちの未来を描いていた建築士なら。

私たちはどこかで「福祉の相談は専門家に」と思い込んでいた。だが、加藤さんは現場で見たきた光景を、いたずらっぽく笑みを浮かべ話し始めた。

「いつも行く時計屋の親父さんには『実は最近、足が痛くて困ってるんだ』と本音を漏らすおじいちゃんが、同じ場所に座っているケアマネジャーには、絶対に相談なんてしない。今日初めて会った専門職に



彼の自分らしさを表現する村上さん

『困っていることはないですか？』と聞かれて、本音を答える人なんていないんです」。社協や包括といった窓口は、多くの市民にとって、本当は「一生お世話になりたくない場所」かもしれない。だからこそ、日常の延長線上にある、時計屋のような、もっと柔らかい関係性が必要なのだ。

その「関係性」を、村上さんは独自の言葉で表現した。「何でも一人でできることがいいことじゃないと思うんです。人をうまく頼れることが大事で。だから私は、息子や利用者さんに『私のことをうまく使ってください』って伝えているんです」。

設計図すら存在しなかった。息子さんが高校3年生になった時愕然とする。「どこかに行く場所はあるだろう、みんな見捨てないだろうと思っていた。でも、行く場所は本当にどこにもなかった」と振り返る。「ないなら、作るしかない」。その決意は、プロの使命感というより、母として息子を思う切実な「生きるための選択」だった。

そう思うと「ここに、こんな場所が必要なんだ」という一人の叫びや、今日をどうにか機嫌よく生きたいというささやかな願い。そんな、一人ひとりの日常や、誰かとの関わりの中に活動が生まれてくるものかもしれない。

加藤さんの「自分の親を預けたくない」という違和感。村上さんが「息子の行く場所がない」という絶望。それらから生まれたように。

### ケアの語源は「耕す」

「よくね、『その人らしさ』っていう言葉を僕は使うけど、じゃあね、あなたのその人らしさってなんですかって聞かれて、

### 「もっと！」といえる経験を

「：本当にそれでいいんですかね。」

さっきの加藤さんのその言葉は彼女の頭の中でこだまする。村上さんは自身の息子さんの日常を重ねるように話し始めた。「私は料理を作るのが好きで、キッチンに立ってずっと料理をしていられる。でも、耳が暇だと落ち着かなくて、同時に小説や音楽を流すんです。一方で、息子は雑誌をめくる感覚に浸っている。お互いの『心地いい』はバラバラ。でも、それがいい。無理に一緒に何かをするのではなく、お互いの心地よさを担保できる空間で、ただ共にいる。」

村上さんが運営する「ぼけっとぴーすの森」には、決まった活動メニューがない。あるのは、その人の「楽しい、心地いい」を探る時間だ。「障がいがあるから経験が少なくて当たり前前、なんて思いたくない。だから、車椅子で海にも入るし、いかにで風も感じる」。ある時、カフェの店員さんが、



想いを語る加藤さん

「答えられます？」と加藤さんは鋭い表情で切り込んだ。一瞬、会話が止まる。確かに、答えはすぐにでてこないし、一言ではいえそうにない。

「僕らは関わる前に、その人の情報を集めるけれど、本当にその人を知ろうとしているか。どこで生まれて、何を食べて、どんな仕事に誇りを持って生きてきたのか。そういう背景を知る努力もなしに、ただ毎日同じようにお茶を出し、全員に折り紙や塗り絵をさせて、『ケアしてます』って……本当にそれでいいんですかね。」

加藤さんは続ける。「ケアの語源は、ラテン語の『耕す（カルチベート）』なんです。相手道具一式を抱えて事業所にやってきた。憧れだったカウンタに座り、本格派コーヒーの香りにつつまれるみんな。もう、嬉しさのあまり、「もっと！もっと！」とコーヒーをお代わりしている。後ろのテーブル席から賑やかな姿を眺め、自分の目がほころぶ。

『できないから』とあきらめるんじゃないかって、当たり前のこととを、みんなと一緒にすること。その『楽しい、心地いい』の繰り返しが、人生を耕していくんだと思うんです。華奢な身体からは、想像できないくらい力強く話す村上さん。

支援する相手をこちら側の型にはめようとしてはいけない。加藤さんの言う「背景への敬意」と、村上さんの言う「心地よさの担保」。

あなたが今日、誰かに向ける優しさは、その人の可能性を耕せているだろうか。 「もっと、もっと！」とカウンターでコーヒーをお代わりする姿。コーヒーカーップから立ち上る、白い湯気の温かさ。その向こうに彼らが映った。

# 地域の中で孤立する人をつくらない

## 寒河江市地域見守りネットワーク事業

### 町会全体がひとつのチームに

昔と今、  
ご近所同士のつながり方は  
変わってきている

かつての地域のつながりが、少子高齢化、核家族化が進むとともに薄れがちになっている現代。それでも多くの人が「住み慣れたこの場所で、最後まで安心して暮らしたい」という願いを持っています。

この事業は、町会長さん、民生委員児童委員さん、地域福祉推進員さん（以下、見守り役員さん）が中心となり、「町会全体がひとつのチーム」となってゆるやかに気にかけて合う関係づくりをすすめるものです。

あなたのまちの  
地域福祉推進員さんの  
活動の一コマ

### 「気づけばひとりぼっち」を生ませない ゆるやかなつながりはこの先も欠かせない

地域には、「気づいたら孤立している」「誰かと話したいのに自分からは声をかけづらい」という方がいます。

見守り役員さんは、年度当初に話し合い、「そっと見守る必要がある」と感じる日中ひとりの高齢者や障がいのある方、子どもたちがいるお家など、見守る世帯を決めて活動しています。



各地区社協では  
地域見守りネットワーク強化  
のための活動を行っています

- 寒河江**  
見守りネットワークに関する文書の送付
- 柴橋・醍醐**  
見守りネットワーク研修会の開催
- 西根・柴橋・高松・醍醐・三泉**  
見守り役員を対象とした福祉研修会の開催

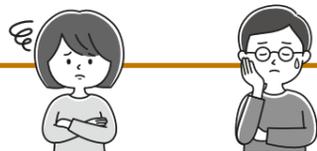


地域見守りネットワークのイメージ

(町会長・民生委員児童委員・地域福祉推進員)

### 自分の町会の見守り役員さんに協力を！

見守り役員さんの悩み



「ほかにも役職があって大変」  
「昔みたいに近所の様子が分からなくて…」

「お隣の〇〇さん、なかなかお顔が見えないから心配で、郵便物の溜まり具合やカーテンの開閉とか、少しでも気にかけてもらえないかな？」

そんな声が役員さんからかかれば、ぜひご協力をお願いします。

### POINT 協力のポイント

気付く → つなぐ (見守り役員さんや地域包括支援センターへ)

- ポスト** 新聞や郵便物が溜まっていない？
- カーテン** 昼間なのに閉まったまま、夜なのに開いたまま？
- 電気** 夜中もずっとついてる、あるいは夜なのに真っ暗？
- 挨拶** 気温と服装が合っていない、いつもと様子が違う？

その小さな「おや？」が、  
地域の安心に  
変わっていく

# ご案内

## 寒河江市成年後見センター

住み慣れたこの街で、自分らしく。  
寒河江市成年後見センターがあなたの安心を支えます

「これからのお金の管理、どうしよう?」「離れて暮らす親の生活が心配……」そんな不安に寄り添い、認知症や障がいにより判断能力に不安を感じている方の権利を守るのが「寒河江市成年後見センター」です。地域の皆さんが安心して暮らし続けられるよう、私たちが全力でお手伝いします。

### 活動内容

- ▶ 申立ての支援 / 家庭裁判所への申立て書類の書き方や相談など、最初の一步を丁寧にサポートします。
- ▶ 後見人等の支援 / 親族で後見人を務めている方や、初めて後見人になる方の不安や疑問にお答えします。
- ▶ 周知活動 / 地域の集まりや勉強会へお伺いし、制度について分かりやすく解説します。
- ▶ 相談対応 / 福祉サービスの手続きやお金の管理でお困りの方へ、関係機関と連携して対応します。

### お問い合わせ先

寒河江市成年後見センター  
(寒河江市社会福祉協議会内)

場所 寒河江市中央二丁目2番1号 ハートフルセンター2階  
時間 月～金曜日 8:30～17:15 (祝日・年末年始除く)  
電話 0237-83-3220

## 山形県社会福祉協議会

## 教育支援資金のご案内

子どもの『学びたい』気持ちを応援します。  
無利子の『教育支援資金』のご紹介

「高校や大学に進学させたいけれど、入学金や授業料の工面が大変……」そんなご家庭を対象に、お子さんの修学に必要な費用をお貸しする制度です。この貸付金は、無利子なのが大きな特徴。「うちは対象になるかな?」と思ったら、まずは寒河江市社協へご相談ください。

### 制度のポイント

|         |   |
|---------|---|
| 対象となる世帯 | 低所得世帯(収入基準があります)で、学校教育法に規定する高校、短大、大学、専修学校等への入学・在学を希望する世帯。 |
| 貸付の種類   | 教育支援費 授業料など就学に必要な費用                                       |
|         | 就学支度費 入学金、制服代など入学時に必要な費用                                  |
|         | 貸付利子 無利子  |
|         | 相談窓口 寒河江市社会福祉協議会  |

### ご相談の流れ

- まずは相談 / お電話または窓口でお困りごとを伺います。  
↓  
内容の確認 / 世帯の状況や進学先、必要な金額などを確認します。  
↓  
申請・審査 / 山形県社協での審査を経て、貸付が決定します。

## フードドライブ・生活相談

「あなたの『困った』を、地域の『お互いさま』で支えたい。」  
～フードドライブの食品をお渡ししています～

生活再建をお手伝いすることを目的に、支援を必要とする世帯へ、食品や生活用品をお渡ししています。1人で抱え込まず、まずはお気軽にご相談ください。

### お渡しできるもの

地域の皆様から寄付いただいた、大切なお裾分けです。  
お米やレトルト食品、カップ麺など  
缶詰、お菓子、飲み物、洗剤などの日用品

在庫状況により  
異なります

### ご相談・お受け取りについて

お困りごとの内容に合わせて、これからの生活を一緒に考え、必要な支援につなぐお手伝いもしています。

教育支援資金  
フードドライブ・生活相談

お問い合わせ先

寒河江市社会福祉協議会  
(ハートフルセンター2階)

電話 0237-83-3220

## COCO&キッチン

初めて会う人ばかりだけど、  
なんだか居心地がいいの



表紙の写真

地域の10代から80代までのスタッフが力を合わせ、「つくって食べるCOCO&キッチン」を開催しました。スタッフが迎える参加者は、小中学生の親子。事前の打合せから、グループ分けや交流ゲームなど、楽しいアイデアが飛び交いました。当日は、「乱切りってどうやるの?」、「僕、塩持ってくる!」と子どもたちに触れながら、思い思いに普段の料理を伝授しました。持ち寄った「方言カルタ」や「お手玉」も、スタッフの〈得意〉と子どもたちの〈興味〉が重なり大にぎわい!最後には、参加者アンケートの「また会いたい」「優しくしてもらえて居心地が良かった」との声に、皆さん最高の笑顔を見せてくれました。



## 一人暮らし高齢者の集い

### ■ 南部地区社協「芋煮会と昔語り会」

コロナ禍からしばらく休止していた「ひとり暮らし高齢者の集い」。今年度こそ再開したいと、ふれあいサロン「南部コスモス会」の協力を得て開催することができました。当日は「さがえ昔語りの会」の昔話を聴き、おいしい芋煮を食べながら楽しいひと時を過ごしました。「昔話は教訓と懐かしさに満ちていて大変満足されていた。また地域福祉のあり方を考える機会となった」と報告がありました。

### ■ 外の空気を胸いっぱい吸い込もう 醍醐地区社協「紅葉見学会」

猛暑が一段落した10月末、紅葉を楽しむバス旅行が開催されました。道中バスの窓から眺める月山街道の紅葉は色鮮やかで、皆さんもうっとり。隣同士でのおしゃべりも楽しみながら、あっという間に庄内観光物産館に到着。まずは鶴岡公園を散策。お濠沿いに散策路が整備されており、立派な石垣、樹齢数百年の老杉を眺めました。お楽しみのお昼ご飯は、たくさんの小鉢のお膳。思わず歓声が上がります。皆で食べる食事は格別においしかったと参加者。最後は湯野浜まで足を延ばし、潮風を浴びることもできました。醍醐地区社協からは「楽しく懇談できてよかった。足腰に不安があり参加できない方もいたので、内容について検討していきたい。」との前向きなお話がありました。



## 想いがそろえば現場は変わる。自律したチームの作り方 — 役職員研修で向き合った問い —

㈱あおいけあ代表 加藤 忠相 氏

「良かれと思ってしていることが、相手の力を奪ってはいないか」加藤忠相さんの言葉は、役職員一人ひとりに静かな問いを投げかけました。その問いを受け止める場として、役職員研修会では、日々の仕事を振り返りました。

研修で共有されたのは、正解を指示するのではなく、目的や想いを共有し、現場で考え、判断し、動ける関係性の大切さです。「この支援は、その人の人生を耕しているだろうか」対談の言葉を胸に、私たちは自分たちの仕事を問い直しています。



## お知らせ

### 令和8年度ボランティア行事保険のお知らせ

地域福祉活動やボランティア活動の一環として行う行事に対して、ケガや賠償などの補償を行う保険です。社会福祉協議会窓口で受け付けています。

### イベント用機材 貸出協力金のお願い

地域の行事等で貸し出している機材について、今後の安定した運営とメンテナンスのため、協力金をいただくことになりました。

地域の皆さまの支え合いを継続するため、ご理解をお願いいたします。詳しいお手続きについては、お問い合わせください。

### 協力金をいただくもの

綿菓子機、鉄板焼き機、ポップコーン機、かき氷機、発電機ほか

一つにつき  
500円

### 無料で貸し出しするもの

車椅子、わなげセット、高齢者疑似体験セットほか

すべての問い合わせ先は ▶ 【市民福祉課】 ☎0237-83-3220

## 募集

### 食の自立支援事業 「ふれあい給食」ボランティア募集

一人暮らし高齢者等に昼食をお届けし、安否確認をする「ふれあい給食」の調理、配送（運転手）ボランティアを募集しています。興味のある方はお問い合わせください。

### ペットボトルキャップ回収終了のお知らせと感謝

長年にわたり、ペットボトルキャップの回収にご協力いただき、誠にありがとうございました。諸事情により、令和8年3月末をもちまして回収を終了させていただきます。

なお、以下の物品については、引き続き回収を行っております。

### 継続して回収するもの

プルタブ、書き損じハガキ

### 終了するもの

ペットボトルキャップ

皆さまの温かいご協力に心より感謝申し上げます。



## ありがとうございます！ — お礼とご報告 —

### 赤い羽根共同募金・歳末たすけあい募金

市民の皆様をはじめ、事業所・団体・学校など多くの方々よりご支援いただきました。厚くお礼申し上げます。

皆様からの善意は、地域の福祉向上のために運用させていただきます。

赤い羽根共同募金  
募金額

4,869,265円

歳末たすけあい募金  
募金額

2,715,550円

## 感謝

### NPO法人らっふる様より

### 「寄付つきお菓子」のご報告

NPO法人らっふる様で販売された「赤い羽根共同募金 寄付つき商品」の売上より、心温まるご寄付をいただきました！

10月中旬から店頭や各地のイベントで販売されたあのお菓子が、地域の福祉を支える力になります。手に取ってくださった皆様、そして所長の草刈様をはじめ関係者の皆様、本当にありがとうございました。

いただいたご寄付は、地域の障がい者支援や福祉活動のために大切に運用させていただきます。



NPO 法人らっふるさんより

## みんなの よりどころ COCO&

どこに住んでいる方でも、何歳の方でも、お一人でも友だちとでも、誰でも気軽に集える場、「COCO&」が令和8年度もスタート！地域のスタッフさんが温かく迎えてくれます。

第1回 5月13日(水)

時間 10時～11時30分

協力金 200円

場所 南部小学校北校舎

持ち物 内履き

開催情報は  
Instagram[sagae\_ss]  
をチェック



## QUOカード1,000円分を 3名様にプレゼント

広報誌「愛さぼーと127号」の感想をお待ちしています。



- 名前
- 住所
- 連絡先（電話またはE-mail）
- 広報誌を読んだ感想・ご意見

締切 令和8年3月25日(水)

二次元コードから読み取りフォームに回答いただくか、またはハガキでも受付いたします。

### 「愛さぼーと126号」にお寄せいただいた感想

(一部抜粋)

- クッキー購入という小さな行為が社会を巡り巡って、誰かの為になるという実情に目頭が熱くなりました。私もスーパーで手作りクッキーを購入する機会がありますが、誰かの為になれとよいなと思いながら一口を噛み締めたいです。
  - 地域は住民の力で変えられる、という言葉がその通りだと思いました。記事を読むだけでも自分も何か力になれたらと、地域のために前向きな心を持てます。
  - 表紙の写真の自然なショットが素敵です。
- ※「愛さぼーと」のバックナンバーはホームページからご覧いただけます。

## ありがとうございます！ 寄付のお礼とご報告

### 寄付金

※敬称略

- 佐藤安男
- 玉虫エコクラブ 事務局 高橋正吾
- 全国大陶器市振興組合 代表理事 御厨 剛
- 匿名 4名

### 物品

- (株)ヤマザワ
- (株)セブン-イレブン・ジャパン
- 寒河江「小さな親切」の会 会長 大沼一彦
- 国際ソロプチミスト寒河江
- J A さがえ西村山 女性部
- 生長の家 寒河江支部
- 寒河江市シルバー人材センター女性会員 「ほのぼのサロン」
- 匿名 10件

※令和7年2月から令和8年1月末日までにいただいた方を掲載しております。

## 第75回 山形県民福祉大会

※敬称略

### 県知事表彰

- 社会福祉事業従事者等 従事者  
相澤 洋子 高橋 陽子
- ボランティア功労者 団体  
クラシックギターアンサンブル アリオン

### 県知事感謝状

佐藤 一美

### 大会会長表彰

- 民生委員・児童委員功労者  
井上 康 小山三枝子 鈴木 文夫  
渋谷啓一郎 大熊 幸夫 宇井 裕子  
白田 昭 奥山 正則 芳賀 幸子
- 一般社会福祉事業関係功労者  
高橋 和敏 高橋 愛子
- 社会福祉事業協賛・奉仕者 (団体)  
いっちゃん会 手話サークルかがやき
- 地域福祉活動功労者  
柏倉 茂夫

# つつじいろ



辻 六郎 さん  
寒河江地区



包括職員

手をかけた分だけ、うまくなるんだ

## 「何でもそうだけどさ、近道はないんだよ」

そう語る辻さんは、どこか江戸前の気風を感じさせる職人気質の人です。寒河江市高屋出身。若い頃に上京し呉服店で修業を重ね、独立後は商いの道を歩んできました。のちに、遊佐町で蕎麦屋を開業。そば打ちは、辻さんの得意を象徴する一つです。

## 「かえしはな、何日もかけて作るんだ」

だしはすべて手作り。分量や寝かせる日数にも一切の妥協はありません。そのそばは評判となり、福祉施設やケアマネジャーに振る舞うこともありました。「うまいって言われると、やっぱり嬉しいね」と、ぶっきらぼうながらもどこか照れた表情を見せます。そんな辻さんも、犬の散歩中に脳出血で倒れた過去がありました。大きな後遺症もなく軽快しましたが、そこには辻さんの人知れない努力がありました。

## 「あの時、リハビリをすごく頑張ったから、今の自分があるんだ」

そば打ちと同じように、近道を選ばず、一步一步自分の体と向き合い続けた日々。その懸命なりハビリがあったからこそ、今の活気ある暮らしが保たれています。

奥様を亡くしたことをきっかけに始まった寒河江市での一人暮らし。当初は不安もあり、デイサービスや訪問介護を利用していました。しかし、持ち前の根気強さで元気を取り戻した辻さんは、「もう自分の力でやっていける」と、いつしか介護サービスを“卒業”するまでに回復。頼る側から、自ら動く生活へと舵を切りました。

地域包括支援センターと生活支援コーディネーターが間に入り、囲碁が得意な辻さんと、囲碁の相手を探していた高齢者施設の入居者をマッチング。辻さんは「頼まれたなら行くよ」と、気負うことなく囲碁の相手として施設を訪れました。「打っているうちに、時間なんてあっという間だね」。得意なことが、誰かの楽しみにつながる時間となりました。

## 「家に閉じこもってちゃ、元気は出ない」

通いの場や人との交流を重ねながら、今も囲碁や将棋、グラウンドゴルフを楽しむ辻さん。支えがあるからこそ、自分で選び、自分らしく暮らす。その姿は、地域でのつながりが生む力を静かに教えてくれます。

☎ 寒河江市地域包括支援センター ☎ 0237-85-0896

## 生活支援コーディネーター(SC)の活動

西根小学校のクラブ活動に  
地域の方をご紹介します！



デイサービス卒業に向け、得意な工作を活かせる場を探していたAさん。クラブ活動では、コースターづくりの講師として活動。「先生教えて」と子ども達から引っ張りだこ！「どれや」と微笑む姿が印象的でした。

「自分らしく元気を取り戻したい」と感じたら、地域包括支援センターまたはSCにご相談ください。

## 活動報告

### 「助け合い」をカタチに。生活支援協議体会議を開催

誰もが自分らしく暮らし続けるまちの体制づくりを目的に、移動支援を中心とした生活課題を話し合う「協議体会議」を開催しました。

#### 参加者

町会長連合会、商工関係団体、行政、移送ボランティア団体、社会福祉法人、包括、生活支援コーディネーター

#### 地域の困りごとを「仕組み」で解決する

高齢化が進む中、既存のサービスだけでは手が届かない「日々の不便」を、地域・事業者・行政がどう連携して解消できるか。現場の声を共有し、具体的な解決策を探りました。

#### 協議された主な内容

**移動の壁：**高額な運賃やボランティアの事故リスクが活動の妨げになっています。既存資源の有効活用のため、公共交通の利用訓練の導入やスクールバスの活用などが提案されました。

**雪とゴミ出し：**急な依頼への対応や費用負担が大きな課題です。事業者側からは、対応状況を「見える化」する仕組みや、町内会と連携した相談会の実施など、具体的な工夫が示されました。

**地域コミュニティ：**町会の担い手不足に対し、専門機関と連携して「集いの場」をどう維持していくかが急務となっています。

#### 今後の展望

市からは、雪国特有の課題や移動の困難さが深刻化している現状を重く受け止め、庁内各部署と連携しながら解決の道を探っていくとの回答がありました。今回出された貴重な意見を整理し、一步一步具体的な仕組みづくりへ繋げてまいります。

